科目名 Subject	テクニカルヘアⅠ Techniques of Hair DressingⅠ		教員名	ヘアチーム	
開講年次	1	開講時期	前期	単位	1
必修／選択	必修	授業形態	実習	時間	30
実践的教育	○				

主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・コミュニケーション力
	◎	◎	◎	◎	○

科目の概要	ヘアアレンジは若年層において需要の高い技術である。ここでは流行を踏まえながら、ヘアアレンジの基礎的技術と、2年次前期実施の「テクニカルヘアⅡ」につながるアップスタイリングの基礎理論および基礎技術を学ぶ。
授業の目標	アップスタイルやブレイド等、ヘアアレンジの基礎的技術ができるようになる。 また創造力を活かし、イメージしデッサンしたデザインを、習得した技術を用いて作品化することができるようになる。
時間外学習 （予習・復習）	予習：第５回以降、ウィッグの下準備をする。（ローラー巻き）（概ね３０分） 復習：授業で習得した技術を再確認し、より完成度の高い技術が行えるよう反復練習をする。（概ね３０分）

教科書・教材	教科書	美容技術理論1（日本理容美容教育センター）
	教材	ヘアアクセサリー
	使用設備・備品	なし
	参考文献	なし
評価方法	授業態度１０％、スライド提出１０％、コンセプトシート１０％、作品制作課題７０％	
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。	
学生へのフィードバックの方法	定期試験の要点について、掲示にて解説を行います。	
	※解説手段は掲示に限りません。	
履修上の注意	美容技術を学ぶにあたり、遅刻、欠席はスキルアップに支障が出る為、原則認めません。また、そのために再度デモンストレーション等の時間は設けません。授業中の私語、勝手な退室等の不適切と思われる行為を行った場合は、欠席と同等の扱いとします。	
本科目履修と関連する資格	資格名	なし

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第１回	オリエンテーション アップ基礎理論	アップスタイリングの基礎知識を理解する。	復習：道具の名前や用語を覚え、次回からの授業で支障がないようにする。
第２回	アップ基礎技術 ブラッシング・一束・逆毛・ピニング	アップスタイリングの基礎技術が行えるようになる。	復習：基礎技術が確実でないと作品の完成に影響する為、一つ一つの技術を繰り返し練習すること。
第３回	ヘアアイロン技術	ヘアアイロン技術が行えるようになる。	復習：アイロン技術を習得し、ヘアアレンジに活かせるよう練習すること。
第４回	ローラーの巻き方	ローラー巻きの必要性を理解し、ローラー巻きの技術が行えるようになる。	復習：下準備は作品の出来上がりに影響する為、正確・丁寧に行えるようにする。
第５回	ブレイド技術 ・三つ編み・編み込み・ロープ編み	様々なブレイド技術を知り、ブレイド技術が行えるようになる。	復習：手つきが自己流にならないように、反復練習して正しい手つきに慣れること。
第６回	ブレイド技術の応用 ・四つ編み・編みの崩し	応用のブレイド技術が行えるようになる。	復習：手つきが自己流にならないように、反復練習して正しい手つきに慣れること。
第７回	すき毛の使い方	すき毛の必要性を理解し、扱うことができるようになる。	復習：次回から必要な時にはすぐにすき毛を使えるように用意をしておくこと。
第８回	ブレイドを使ったスタイル	ブレイド技術を使ったスタイルを時間内に完成させることができる。	復習：授業で行ったスタイルを、完成度を上げられるよう反復練習をする。
第９回	ツイスト技術	ツイスト技術が行えるようになる。	復習：授業で行った技術を、完成度を上げられるよう反復練習をする。
第１０回	ツイストを使ったスタイル	ツイスト技術を使ったスタイルを時間内に完成させることができる。	復習：授業で行ったスタイルを１か所以上アレンジして、作品を作ってみる。
第１１回	オリジナルスタイル考察	これまでに習得した技術を活かし、オリジナルのスタイルを考える。	予習：作りたいスタイルを考えてくる。必要に応じて、切り抜きや画像を用意してくる。
第１２回	オリジナルスタイル練習	前回考えたスタイルをモデルウィッグで表現することができる。	復習：次回の作品制作に向けて、繰り返し練習をすること。
第１３回	オリジナルスタイル制作	クオリティーの高いオリジナルスタイルを完成に近づけることができる。	復習：次回の作品制作に向けて、繰り返し練習をすること。
第１４回	オリジナルスタイル制作 コンセプトシート制作	オリジナルスタイルを完成させ、コンセプトシートも完成させることができる。	復習：次回の作品制作に向けて、繰り返し練習をすること。
第１５回	グループワーク	他者の作品の意図を読み取り、自分の作品のプレゼンテーションができるようになる。	復習：他の作品から得たヒントを活かし、新しいオリジナルスタイルを作ってみる。